

10年以内にDXBのフライト移管

■ドバイ・DWC 拡張計画再始動

アラブ首長国連邦(UAE)のドバイ政府は4月28日、ドバイ・ワールド・セントラル(DWC、アル・マクトゥーム国際空港)で新たな旅客ターミナルを整備するなどの空港拡張計画を承認したと発表した。もともと将来的に滑走路を5本整備するなどの計画はあったが、拡張プロジェクト自体は2019年段階で停止しており、今回、再始動した格好。当初計画では最終的に年間1500万トンの貨物処理能力を掲げていたが、1200万トンに見直した。旅客ターミナルの整備工事などを今後10年以内で完了し、ドバイ国際空港(DXB)のフライトを移管していく予定。DXBは工事期間中は現状通り、ハブ空港として機能する。今回承

認した投資額は1280億ディルハム(約5兆4642億円、1ディルハム=43円換算)。中東でのハブ空港を巡る競争は激しくなりそうだ。

DWCはドバイの新たな空港として整備され、2010年6月にまず貨物事業を開始し、14年5月までにすべての貨物事業者はDXBからDWCに移転した。旅客便は13年10月に就航。現在、2本の滑走路を運用している。最終的には70平方キロメートルの敷地に5本の滑走路を備え、旅客の年間処理能力で2億6000万人を目指す。再始動した拡張プロジェクトの第一弾を通じ、1億5000万人の処理能力に引き上げる見込み。

DWCとDXBを運営するドバイ空

港会社のポール・グリフィス最高経営責任者(CEO)は今回の計画について、「世界の主要な航空ハブとしてのドバイの地位がさらに強固になる。DXBは引き続き主要ハブとして機能する。DWCの第2フェーズが具体化する中、今後数年間で1億人以上の旅客の需要に応じていく」などと述べた。

国際空港評議会(ACI)が4月に発表した2023年(1~12月)の世界の空港ランキング(速報値)で、旅客数全体(国内含む)ではDXBが8699万4365人で世界2位で、そのうち国際は世界1位。一方、貨物取扱量では世界トップ10圏外で、中東の最高位はドーハの235万5503トンの8位だった。